

## 「顔の見える能登の食材」として

## 大浜大豆等のえだまめの市場デビューを支援

奥能登農林総合事務所珠洲農林事務所



大浜大豆のえだまめの販売用POP

大浜大豆などの地豆を栽培している珠洲市狼煙町のN農産では、今年度から地豆のえだまめの生産販売に取り組んでいます。

以前から「大浜大豆のえだまめが美味しい」との評判は高かったものの、まとまった生産はなく市場流通もしていませんでしたが、市場からの強い引き合いもあって「顔の見える能登の食材」として出荷することとなりました。

当事務所では、本取組をモデルとして大浜大豆のえだまめが、能登の新たな特産品となるよう、栽培管理、出荷調製の指導、JA・市場を交えた出荷打合せ会の開催など市場関係者との調整等を行いました。

取組初年目である今年度は、市場の評価データを収集することを目的に地豆である「大浜大豆」「緑豆」「大浜の黒豆」に加えて、一般に生産されている「あやこがね」の4品種を栽培しました。

出荷に先立ち、8月18日に卸、仲卸の担当者を珠洲市の現地に招いて、栽培ほ場の視察等を行うとともに、出荷形態（枝付き・バラ）、出荷スケジュールなどについての検討を行い、9月12日から「あやこがね」の販売を始め、以後、地豆の「緑豆」「大浜大豆」「大浜の黒豆」の順に出荷を行いました。

市場からは、「地物のえだまめは出荷量が少ないので、もっと出荷して欲しい」「地豆は味や風味が良い」などの良い評価をいただいた反面、「日によって出荷量や荷姿が違っている」「小分け用のシールを添付して欲しい」「もう少し早い時期に出荷できないか」など様々な要望もいただきました。

今後は、今年度の結果を検証し、新たな特産品として定着するよう、新規生産者の確保・育成、規模の拡大など課題の解決を図っていきたくと考えています。

問い合わせ先：奥能登農林総合事務所珠洲農林事務所（TEL 0768-82-3111）